

「ディスカバー<sup>むら</sup>農山漁村の宝」有識者懇談会委員名簿

- あん・まくどなるど 上智大学大学院教授、慶應義塾大学特任教授
- 今村 司 日本テレビ放送網(株)執行役員 事業局長
- 織作 峰子 大阪芸術大学教授、写真家
- 田中 里沙 事業構想大学院大学学長、(株)宣伝会議取締役
- 永島 敏行 俳優、(有)青空市場代表取締役
- ◎ 林 良博 国立科学博物館館長
- 藤井 大介 (株)大田原ツーリズム代表取締役社長、  
(株)ファーム・アンド・ファーム・カンパニー代表取締役社長
- 三國 清三 オテル・ドゥ・ミクニ オーナーシェフ
- 向笠 千恵子 フードジャーナリスト、食文化研究家、  
郷土料理伝承学校校長
- 横石 知二 (株)いろどり代表取締役社長

<◎ : 座長>

【五十音順 : 敬称略】

## 第5回選定に係る公募手順の見直しについて

## 【これまで】

募集時にグランプリ・特別賞の選定方法を示していなかったため、応募のための情報が不足していた。

交流会の実施、選定地区が参加するマルシェの開催、国内外の展示会への出展、選定による効果等、応募者のインセンティブとなる情報発信が不十分であったため、応募者の関心が得られにくい状況であった。

募集用WEBページが整備されていなかったため、募集に関する情報が伝わりにくい状況であった。

他薦を受けた地区は、自薦地区と同様の応募書類を作成していたため、応募期間中に応募書類の作成が間に合わない事例があった。

応募書類のCD-Rを郵送しなければならなかったため、応募に手間がかかった。

## 【第5回選定での見直し内容】

第1回有識者懇談会において、グランプリ・特別賞の選定方法を決定し、それを明示して募集を行う。

交流会、選定地区によるマルシェや展示会における情報発信等の状況、選定による効果や横展開への波及状況等のアンケート調査結果、選定等の情報を募集時に発信する。

「ディスカバー農山漁村の宝」WEBページを整備し、募集情報へのアクセスの明確化を行う。

他薦者が他薦をする地区の了解を得て、応募書類を作成し、直接応募できるようにする。

Web上での応募を受け付ける等、応募方法の簡素化を行う。

## 平成29年度における取組について①

- 「ディスカバー農山漁村の宝」やその選定地区の知名度を向上させるとともに、横展開を推進し、農山漁村の活性化の取組を一層推進するため、国内外の展示会への出展、シンポジウムやマルシェの開催、各種メディア、民間との連携による選定地区の情報発信を実施。

### ● 海外展示会への出展

2018年3月17日、18日に中華人民共和国の大連市において開催された日本の文化、商品、観光等の発信を目的とした「大連ジャパンブランド」に、第4回選定のグランプリ地区を中心とした「ディスカバー農山漁村の宝」の展示ブースを設け、海外において「ディスカバー農山漁村の宝」のPRを実施。



「ディスカバー農山漁村の宝」のブースの様子



ステージ上でのグランプリ地区のPRの様子



「ディスカバー農山漁村の宝」のPR動画の放映



来客者自身のSNS投稿による情報発信を促す取組の実施

### ● 国内展示会への出展

2017年9月に東京ビックサイトにおいて開催された「ツーリズムEXPOジャパン2017」への選定地区の出展を支援。

一般へのPRの機会に加え、選定地区と旅行業者との商談の機会を設けた。その結果、ツアーの造成・催行などの成果にもつながった。



「ディスカバー農山漁村の宝」のブースの様子



商談会の様子

また、毎年11月にサンシャインシティにおいて開催される農林水産祭（実りのフェスティバル）において、選定地区の取組や動画等を展示。一般消費者等への「ディスカバー農山漁村の宝」及び選定地区の知名度の向上を図った。



「ディスカバー農山漁村の宝」のブースの様子

## 平成29年度における取組について②

### ● シンポジウムの開催

2017年6月に熊本市において、横展開及び「ディスカバー農山漁村の宝」に関する情報発信のための、シンポジウムを開催し、選定地区6地区による取組発表やパネルディスカッションを実施。



会場の様子



パネルディスカッションの様子

### ● マルシェの開催

熊本におけるシンポジウムや選定証授与式・交流会の開催に合わせ、「ディスカバー農山漁村の宝」及び選定地区について広く情報発信するための選定地区によるマルシェを開催。

選定地区の商品や取組紹介のほか、交流会の動画も放映しPRを実施。



熊本市でのマルシェの様子  
(交流会の動画の放映)



交流会後のマルシェの様子  
(東京日本橋タワー前ブース全景)

### ● 地方農政局等版ディスカバー農山漁村の宝の選定

有識者懇談会による選定された地区以外にも、優れた事例があることから、平成29年度は、地方農政局等においても地方版「ディスカバー農山漁村の宝」を選定。

全都道府県から合計83地区を選定し、各地方農政局等より活動内容の発信等を行ったことにより、地元メディアに取り上げられるなど、各地域での「ディスカバー農山漁村の宝」の知名度向上にも貢献。

#### ブロック別地方版「ディスカバー農山漁村の宝」選定地区数

ブロック	選定地区数
北海道	6
東北	10
関東	12
北陸	14
東海	7
近畿	6
中国四国	17
九州	10
沖縄	1
合計	83

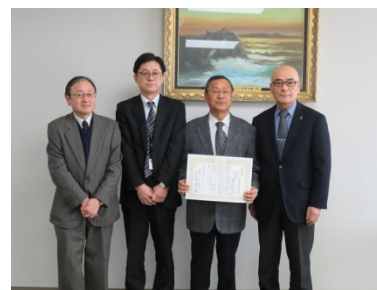
5 福岡県 八女市 | 自然・景観 | 6次産業化 | 定住・移住



取組概要	活動成果
<ul style="list-style-type: none"> <li>●平成24年の九州北部豪雨の被災地域の復興には災害発生後の産業支援や観光交流の推進などが課題であった。</li> <li>●平成26年度から、農山村地域でのCSR活動に興味のある県内11の企業、大学等と5年間の協定を結び協働活動を実施。活動内容ごとに分科会を設置。</li> <li>●高志耕作放棄地での米やソバ栽培、売廃庫の集積広場への転売、米種子法を用いたスノー・商品づくり、古民家の移住体験・交流施設への整備等を推進。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●農作業支援は、高齢化で専従者が出来ない地域で活躍や兼職、多面的機能などの保全に大きな効果があった。また、社員の定着にも繋がった。</li> <li>●放棄農園が増える中で、茶種子法の商品化は地域農産物から高く評価されるとして、企業との産学官連携で安全安心な農産物の購入を導いている。</li> <li>●移住体験施設の開設は、コンサートなどのイベント開催による都市住民との交流が地域活性化につながっている。</li> </ul>

NPO法人がんばりよるよ星野村  
福岡県八女市星野村13102-1番地 Tel: 0943-24-8353 Fax: 0943-24-8383

#### 事例紹介例 「がんばりよるよ星野村」 (九州地区)



選定証授与の様子  
「恵庭農畜産物直売所かのな」  
(北海道地区)

# 平成29年度における取組について③

## ● 各種メディア等による発信

農林水産省の広報等において、選定地区の情報を発信。加えて、有識者懇談会委員の協力による雑誌等での情報発信も実施。

2017年7月には、BS放送による特集番組において5地区の取組が放映。



BSフジによる特集番組の放映  
〔ふるさと萩食品協同組合による「萩の金太郎」を使った料理〕



農林水産省広報誌 (AFF) での選定地区の紹介



海外展示会出展時に放映した動画の YouTube (maff channel) への掲載

このほか、(株)よしもとプロダクツエンタテインメント(大阪市)による「ディスカバー農山漁村の宝」選定地区の取り扱い産物の販売等も実施。

## ● 応募地区の情報発信

第4回選定に応募いただいた地区のうち、希望のあった636地区について、農林水産省Webサイトにおいて紹介。

関東ブロック

都道府県	市町村	団体名	取組の概要
群馬県	沼田市	社会福祉法人あしたか太陽の丘	沼津市の社会福祉法人と森林組合、市がタッグを組み、地元間伐材でスポーツバイク用サイクルラックを生産。
群馬県	高崎市	地域活性化プロジェクトらびりんずゆうとう	雄踏のまちで体験・伝承イベントを開催し今ある知恵や有形無形の財産を未来へつなぐことを目指して活動中。
群馬県	高崎市	久留米電宮小僧の会	平成27年発足の都市との連携し団体が「直虎の見た風景再生プロジェクト」と銘打ち、棚田の保全に取り組む
群馬県	高崎市	うなぎいも協同組合	「地域に恩返ししたい」との思いから、耕作放棄地を利用して「うなぎいも」の生産を開始。ブランド化にも成功し、現在では自ら加工販売する協同組合を設立し、6次産業化を図っている。
群馬県	高崎市	こんなセトや、すてきです。協議会	平成25年に地元有志により協議会を設立。地域資源を活かし、農業体験やエコツアーを実施し地域の魅力の発掘と発信を行っている
群馬県	碓氷郡市	ふじのくに美しく品格のある邑「白米の里」	昭和62年から20年間かけ整備した「平成棚田」を守り、次世代へ繋ぐイベント等の開催により地域活性化に取り組む
群馬県	牧之原市	牧之原市 地域おこし協力隊	地域資源の農産物、景観、おもてなし、体験情報を全国各地から結集したサイクリストが情報発信！

応募地区についての事例紹介例